

電信寫

秘

和ニ〇 二九三〇 略 莫斯科 二月十九日二〇五一發  
 重光外務大臣 省 二十日一四三五着 弘 外務省  
 第三五二號 佐藤大使  
 「チャーチル」ノ歸國ニ際シ爲シタル聲明及  
 「ステチニアース」ノ「モロトフ」宛書翰要旨ノ件  
 第三九號  
 十八日ノ各紙ハ十四日「チャーチル」カ歸國ニ際シ「クリミア」飛  
 行場ニ於テ英蘇兩國空軍將兵ニ對シテ爲シタル聲明及ニ同日莫斯科  
 ラ出發シタル「ステチニアース」ノ「モロトフ」宛書翰ヲ掲ケ居レ  
 ル處要旨左ノ通り  
 「チャーチル」ノ聲明  
 余ノ一行カ十二日本飛行場ニ着陸シテヨリ以來世界ニ大ナル本件  
 ノ發生ヲ見ルニ至レリ即チ英蘇兩國三戰ノ恒久的親善ハヨリ強固ニ

電信寫

ルタ」會談ノ公表ニ見ルモ三大國ノ伊ニ期待スル所ハ速ニ民主國タ  
 ルノ實ヲ上クルニアリソレカ爲ニハ凡ユル分野ヨリ「フアツシヨ」  
 分子ヲ放逐セン爲庸正ヲ強化スルノ要アリ等論シ居レリ  
 (了)

外務省

電信寫

秘

シテ且ツ権威アルモノトシテ宣言セラレ今ヤ吾人ハ誠心誠意部ヘ  
ノ進取ト「ナチ」如惡政ノ激減トニ直面シ居リ又戦後ニ於ケル協  
力ニ懸スル合意ニ到達セリ  
尙懸空軍將兵ト共ニ奮進ニ滞在シ居リタル航空部隊カ身ヲ以テ縣  
聯ノ好意ヲ體験シ得タルコト位ニ本日此際ニ一同相會シ得タルコ  
トハ余ノ欣快トスル所ナリ最後ニ余ハ歸國ノ途ニ就クニ富リ)各  
位位ニ各位ノ指導者特ニ偉大ナル領袖タル「スターリン」元帥ニ  
對シ深甚ナル謝意ヲ表スルト共ニ全世界ニ散在スル英國人カ勇敢  
ナル蘇聯國民及赤軍ニ對シ抱キ居レル感激ヲ茲ニ表明スルモノナ  
リ

「スター」ノ奮進

貴下ニ對スル余ノ謝意ハ之カ表明ヲ明日ニ進呈シ得サル程深甚ナ  
ルモノニシテ余ハ十日日朝出發ニ際シ莫斯科飛行場ニ於テ進ヘ  
タル事ヲ(往電第三三〇號)貴下ニ對シ個人間ニ茲ニ直ニテ陳述

外務省

秘

ヘスト共ニ「カリフォルニア」ニ於テ貴下ヲ歓迎シ得ヘキコトヲ  
衷心ヨリ期待ス

(了)

外務省

昭和二十一年八月二十一日

本報 第二十四〇号

重光外務大臣

瑞西情報第七二號

加瀬公使

(三巨頭會談ニ關スル件)

「ヤルタ」會談ニ參加セル Dyrnes 木戦争助員局長ノ記者團ニ屬セル

談話要聞(十四日BKB)

「ルーズベルト」ハ會談ニ於テ政治經濟問題ニ關シ議長トシテ縱横ノ于腕ヲ振ヒ長ク會談ノ助同ニ重要ナル影響ヲ與ヘ今次渡衣ノ決定共同宣言ハ勿論石以外ノ決定ニ到達シタルカ目下波番ニ附セラレ居ル決定モ逐次渡衣セラレハシ

歐洲將取諸國ニ關スル宣言ハ「ロー」ノ提議ニ係リ重要ナル意義ヲ有スト思考ス「ギリシヤ」「イタリー」「ユーゴー」等ニ於テハ大國ノ實力取消施行セラレ木戰國氏ハ石前勢ニ添メ關フル必安アリト預感シ若リタルモ今取三國ハ解放地取ニ於テ共同歩調ヲ取ルハキ旨ノ

電信寫

秘

電信寫

決意ヲ表明シ米タレルニ預ヘラス準備行爲ヲ一掃セシメタリ石ハ小國全  
 聯シ宣言カ大西洋憲章ヲ再確認シタルコトモ重要ニシテ石ハ小國全  
 聯ニ希望ヲ與ヘ聯合國憲章ノ採擇ヲ容務ナラシムヘシ三國ノ協調  
 政策實施期ニ付テハ一國ノ大使力重大難關アリト認メタル協合之  
 ヲ本國政府ニ報告スヘク三國ハ然ル後ニ波瀾ニ於ケル如ク華聯收付  
 ノ爲ノ特別委員會ヲ任命スル手續ナリ居レリ合議中材料ヲ備メタ  
 ルハ波瀾同也ニシテ他ノ諸問題ニ見サル感見ノ對立アリタリ石ハ不  
 英及蘇聯カ合共ナル波瀾政府ヲ承認シ居ル事實ニ基クハク從テ本件  
 ニ關シ到達シタル決定ハ兩者ノ妥協ナリト謂フヘシ宣言ハ「ルブリ  
 ン」政府ヲ承認シタルニハアラス同政府カ付組織セラレ廣汎ナル基  
 礎ノ上ニ與生セラルル協合列國ハ新波瀾政府ト外交關係ヲ設定スヘ  
 キ旨ヲ表明セルモノナリ三國ハ波瀾ニ於テ具體策ノ實行途ニ目更ノ  
 採擇等ニ關シ波瀾側ト協調スル目的ヲ以テ委員會ヲ設立スルコトニ  
 取極メタリ同波瀾東部國境ニ關シ「カーソン」線ノ下地地方ニ付テ  
 ハ取極メタリ天定ヲ見ルニ至ラス云々（了）

古澤君

昭和二〇 二九七六 平 ベルン 二月十九日二三四五號 政、弘  
二九七七 本 省 二十一日一三一〇着  
二九九六

重光外務大臣

加藤公使

瑞西情報第七三號

(三國會談ニ關スル論評)

瑞西情報第六八號ニ關シ

三國會談ニ關シ當歐紙論評ヲ綜合スルニ左ノ通り

一、概説

(1) 今次會談ハ僅カ八日間ニ軍事外交ニ關スル各種問題ヲ解決シ對  
獨戰ノ終結ヲ促進スルト共ニ來タルヘキ世界平和ノ基礎ヲ確立  
シ新タナル時代ノ趨向ヲ定メタルモノニシテ正ニ劃期的會談ナ  
リト云フヘシ又其ノ聲明モ從來ノ夫レニ比シ美辭麗句尠ク内容  
具體的ニシテ且各種問題ニ現實政治的解決ヲ與ヘ居レリ(十四

電信寫

電信寫

2

日「ブンド」其ノ他各紙

(1) 今次會談ニ際シテハ Byrnes ノ言明セル如ク「ル」大統領カ各種  
問題ニ關シ相當強ク自己ノ意見ヲ通シタルモノノ如ク殊ニ「ス  
ターリン」ヲシテ大西洋憲章及解放地域ニ關スル三國ノ協力ヲ  
認メシメタルハ米英外交ノ勝利ト云フヘシ(十四日「ナシヨナ  
ル、ツアイトング」)從來米英ハ戰後政策ニ關スル蘇聯ノ眞意  
ニ關シ一抹ノ危惧ノ念ヲ抱キ居リタルカ今次會談ニ依リ蘇聯モ  
亦「デモクラシー」ノ原則ニ基キ歐洲戰爭終了後ニ於テ米英ト  
妥協セントスル意圖明カトナレルヲ以テ戰後世界平和確立ノ見  
込愈々確實トナレリ(十五日「ナシヨナル、ツアイトング」)  
蘇聯カ本件會談ニ於テ謙歩的態度ニ出テタルハ一般ノ豫期セザ  
リシ處ナルカ「スターリン」トシテ戰後國內復興ニ米ヨリ多大  
ノ經濟的援助ヲ要スルノミナラス外交的ニモ現實政治的立場ヨ  
リ戰後世界ノ強國タル米ト協調スルヲ得策ト思考セル爲ナルヘ

シ(十五日「ノイエ・チエトリツヘ・ツアイトング」)何レニ  
セヨ本會談ニ依リ英米蘇三國ノ提携ハ愈強化セラレ三國間ノ軋  
轢ヲ利用シテ戦争ノ政治的解決ヲ計ラントセル獨ノ希望ハ粉碎  
セラレタリ(十四日「ブンド」)

ニ獨逸問題

(イ)豫期セラレタル獨國民ニ對スル聲明ノ發セサリシハ三國カ其ノ  
無益ナルヲ知り飽迄武力ヲ以テ屈伏セシメ前同大戦ノ轍ヲ踏ム  
意圖無ク獨逸問題ノ徹底的解決ヲ圖ラント決意シアル爲ナルヘ  
シ(十四日「バスター・ナハリヒテン」)

(ロ)今回伯林ニ三國共同管理委員會ヲ設立スルニ決シタルカ從來蘇  
聯ハ斯ル委員會ヲ拒否シ自己ノ占領地域内ニ *Pactus* ノ自由獨逸  
委員會ヲシテ獨逸政府ヲ樹立セシムヘシト見ラレ居リタルニ  
ミ右ハ蘇側ノ讓歩ト云フヘシ(十七日「バスター・ナハリヒテ  
ン」)

尙三國ハ「ナチズム」及獨「ミリタリズム」ノ根絶サレタル後  
ニ於テ始メテ獨ニ正常ノ國際的地位ヲ認ムヘシト述ヘ居ルヲ以  
テ右共同委員會ハ相當長期ニ亘リ獨ノ行政管理ヲ施行スヘシ  
(十六日「ブンド」)

(ハ)對獨媾和條件ノ苛酷ナルヘキハ一般ノ諒想シ居リタル處ナルカ  
今回ノ聲明ニ依リ一層明白トナリタリ但シ廣汎ナル領土ヲ喪失  
シ幾多工業カヲ破壊セラレタル獨ハ勞働力ヲ提供スル以外ニ賠  
償ノ餘力ナカルヘシ(十四日「バスター・ナハリヒテン」)

紐育「タイムス」華府通信ニ依レハ「ル」ハ獨ノ永久武装解除  
ニ關スル協定ニ關シ「ス」及「チャ」ト協議セル趣ナリ(十五  
日紐育「ルーター」)

(ニ)今次聲明ハ北方ヨリノ對獨攻勢ニ關シ述ヘ居ルカ右ニ關聯シ近  
ク米英ハ諾威又ハ丁抹ニ上陸シ北獨ニ於テ蘇軍ト連絡スルニ非  
スヤトノ噂傳ヘタル(十四日莫斯科UP)

三 平和機構問題

「ダンバートン、オークス」會議ノ表決問題ニ關シ妥協ヲ見ルニ至レルハ極メテ重要ナルコトナルカ其ノ内容ハ未タ發表セラレ居ラス紐育「タイムズ」ノ報道ニ依レハ依然全會一致ヲ要スル模様ナルカ(瑞情六八號參照)右報道カ事實ナリトセハ來ルヘキ平和機構モ又國際聯盟ノ失敗ヲ)繰返スコトトナルヘシ(十七日「バスター」、ナハリピテン)但シ武力制裁發動ノ際ニノミ全會一致ヲ要シ政治的、經濟的制裁發動ノ際ニハ多數決ニテ可ナリトノ報道モアリ(十五日「バスター」、ナハリピテン)倫敦特電)

四 歐洲解放地域ノ問題

(イ) 大西洋憲章ノ原則ヲ認メラレタルコトハ殊ニ米ニ於テ多大ノ好評ヲ博シ「グルー」國務次官モ十三日新聞會見ニ於テ吾人ハ特ニ大西洋憲章ノ原則ノ再確認セラレタルヲ喜ブモノナリト述ヘタリ(十四日華府「ルーター」)

外務省

五 對日問題

(ロ) 但シ問題ハ各國ノ解釋適用ニシテ殊ニ世論カ「民意」ヲ強制的ニ熱望セルハ其ノ例ニ乏)シカラス(十四日「バスター」、ナハリピテン)及瑞情六八一「ラ、スイス」論說參照)

(ハ) 又將來歐洲解放諸國ノ問題ニ關シ英米蘇三國ハ互ニ協議シ共同動作ヲ執ルコトニ決定セルカ右「テヘラン」會議以後殊ニ客年「チャーチル」ノ訪、英以來歐洲ハ英蘇ノ二大勢力範圍ニ分割セラレルカノ如キ觀ヲ呈シタルニ對シ斯ル政策ニ終止符ヲ打チタルモノナリ(十六日「ラ、スイス」)更ニ右決定ハ米ニ取リテハ英蘇ヲシテ政治的意味ニ於ケル歐洲門戶開放ヲ認メシメタルモノニシテ此ノ意味ニ於テモ米外交ノ勝利ト言フベシ(十五日「ナショナル、ツァイトング」)何レニセヨ之ニ依リ米カ歐洲政治ニ容喙スルコトナリタルハ多大ノ意義ヲ有ス(十四日「バスター」、ナハリピテン)

外務省

電信寫

今次會談ノ聲明ハ何等對日問題ニ觸レ居ラサルカ三國ハ單ニ對獨  
戰遂行ノ爲ニミナラス戰後世界政治ノ全般ニ關シ互ニ協力ヲ約シ  
居リ殊ニ蘇聯カ對日問題モ論議スヘキ案港會議參加ヲ約セル事ヨ  
リ推測シ大東亞問題)ニ關シテモ何等カノ安結ニ到達セルハ豫想  
ニ難カラス(十五日「ノイエ、チュトリツヘツアイトング」)蘇  
聯カ將來東亞ニ於テ如何ナル態度ニ出ツルヤハ來ル四月蘇聯カ日  
蘇中立條約ヲ廢棄スルヤ否ヤニ依リトスルヲ得ヘシ(十四日「ナ  
シヨナル、ツアイトング」)(了)

外務省



書籍印刷物、  
冊子類送付用紙  
（大信書略ノ場合）

發送方法（注）

特使

信書書留

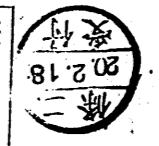
印刷物書留

印刷物便

懸案

文書課長

文書課發送日附 昭和廿年貳月拾九日 扱者



主 管  
第 號  
條約局長

主 任  
條約局長課長  
昭和廿年 貳月拾七日起案

宛 別紙、各公館  
館長宛

先  
（在外公館宛ノ分ハ在外公館表添附ノコト）

總 部 數  
六 部

作成者（又ハ局、部、課等）  
印刷物、冊子名

條約向オニ課調書  
國際聯合（ユナイテッド・ネーションズ）  
其ノ後ノ進捗狀況  
（成ハク詳細ニ記入セラレ度シ）

四部方野事  
在 河内日本大使府支部  
在 西貢日本大使府  
在 中国大使館（南京）  
在 中国（上海）大使館事務所

在 河内日本大使府支部
在 西貢日本大使府
在 中国大使館（南京）
在 中国（上海）大使館事務所

公 信 案

外 務 省

（日本標準規格 B5）

REEL No. A-1232

アジア歴史資料センター

七  
三

昭和二〇 三〇四八 平 本 省 二月二十日二、四〇 政、弘  
三〇四一 本 省 二十二日一、四五 着

重光外務大臣

加瀬公使

瑞西情報第七五號

二十日瑞西情報第七三號ニ關シ

三國會談ト佛國

三國會談ノ反響

今次會談ニ依リ聯合諸國ノ協調強化シタルコト又右諸國カ戰後ニ於テモ相互ノ協調維持ヲ決定シタルコトハ佛ノ獨逸占領及旧休監視委員會參加決定(瑞西情報第六五號ノ(一)ト共ニ佛國輿論ニ多大ノ満足ヲ與ヘタリ(十三日、巴黎AFP)然レ共他方佛國カ會談ヨリ除外セラレタルヲ遺憾トスル聲強ク又會談ノ公表カ戰後ニ於ケル Rheinland 及 Ruhr 地方ニ對スル佛國ノ權利ニ何等觸レ居ラサルヲ以テ三國カ果シテBelin 地方ニ輸スル佛國ノ要求ヲ受諾セル

電信寫

外務省

電信寫

モノト見ルハ尙早ナリト爲スモノ多シ共產黨Ementte 紙ニ「ハヤルタ」會談ニ於テ佛國カ「大聯合戰」ノ一トシテ取扱ハレタリトテ満足シ居ルモ佛國カ支那ト同列ニ置カレタルヲ非難スル新聞多クAube 縣ノ如キハ「ヤルタ」ニ於テ佛ハ支那ト共ニ準強國ノ地位ニ陥レラレタリト迄論シタリ(十七日「ブンド」巴黎通信)

三會議公表ニ輸スル佛政府ノ照會

佛政府ハ「ヤルタ」會談ノ公表ニ關シ米英蘇三國政府宛覺書ヲ以テ左ノ三點ニ付照會セル旨發表セリ(十七日、巴黎「エキステエ

ンジ」)

(1)佛國ハ米英蘇三國ト同等ノ資格ニ於テ桑港會議ニ參加スルモノナリヤ

(2)佛國ハ三國ト同様ノ資格ニテ獨逸占領及伯林共同監視委員會ニ

參加スルモノナリヤ

(3)佛國ハ三國間ノ獨逸占領地帶確定問題ノ論議ニ招待セララルヤ

外務省

電信寫

三、前項佛政府照會ノ反響

(一) 紐育「タイムズ」情報等ニ依レハ華府外交筋ニテハ「ヤルタ」會議公表中既ニ本件佛政府照會ニ對スル回答充分含マレ居レリトシテ當然シ居ル趣ナリ(十七日紐育AFP)

佛國ハ米英蘇三國外相ノ定期會談ニ招待セラレサリシカ右會談ニ於テハ今後ノ國際會議ノ方針戰後ノ平和機構ノ具、體案等樹立セラルヘク從テ佛國ノ參加モ必要トナラズ次第ナリ佛國カ正式ノ招待ヲ受ケサリシハ蓋シ何等手續上未解決ノ點在リタルニ依ルヘク此處ニ再ヒ米英佛三國間ノ關係再檢討ノ必要起ル所以ナリ佛國カ其ノ發言權ヲ擴大スル爲ニハ他ノ西歐諸國トモ蘇佛同盟類似ノ同盟ヲ締結スルコト先決問題タルヘシ

又十八日附「ラ、スイス」紙論說要旨左ノ通り

佛國政府ノ米英蘇宛照會セル三ヶ條ノ内最後ノ一箇ヲ除キ他ハ孰レモ「ヤルタ」會談公表中ニ其ノ返答與ヘラレアリ凡ソ佛政府

外務省

電信寫

ノ照會ハ意義無キコトトナリ米英蘇三國外相定期會談ヘノ佛國不參加ニ關スル第三條ノ適用問題ニ就テハ「ライン」河ヲ長期ニ亘リ軍事占領セントノ「ド、ゴール」ノ企圖ハ米英ニ於テハ多少ノ不審ヲ以テ見ラルヘキモ獨逸問題ノ解決ニ當リテハ佛國ノ西歐ニ於ケル地位ヲ看過シ得ヘカラス結局右外相會談ニ佛國ノ參加ヲ見ルニ至ルヘシ

(了)

外務省

吉澤君  
生  
國  
際  
研  
究

SAN FRANCISCO CONFERENCES

Associated Press

HOUSE CAMPAIGN TO SHARE IN TREATIES STARTED

WASHINGTON, February 20: -- With an eye on the forthcoming United Nations' Conference in San Francisco, the House of Representatives members rekindled their campaign for a share in the treaty making today.

Opponents of the Senate's exclusive control over the treaties went before the Rules Committee arguing for a Constitutional amendment which, if ratified, would make future treaties subject to the approval by a majority vote in the Senate and House.

As it is now, the House has nothing to say about International Pacts, and the sponsors of the amendment are anxious to get it through Congress before the United Nations' Conference meets in San Francisco on April 25 so the House can have a voice in any Congressional deliberations that grow out of

古澤

三國公使

昭和二〇  
年

三〇九四 略 莫斯科 二月二十一日 三三〇 發 政  
三〇九六 本省 二十三日 〇九二〇 著 弘  
三〇五八

重光外務大臣

佐藤大要

第三七四號

（「クリミヤ」會議ニ關スル戰勞誌論文）

莫弟四二號

戰勞誌第四號所載「クリミヤ」會議ノ版末ニ付テ「トヒスル卷頭論  
文及旨左ノ通り

「クリミヤ」會議ハ最大ノ政治的意義ヲ有スル事件トシテ「民主主義  
諸國ニ於テハ公正ナル評價ヲ受ケ居レルカ同會議ノ決定カ現戰局  
ニ戰後平和態勢ノ確立ニ對スル甚大ナル影響ヲ及ボスニ至ルヘキハ  
疑無キ所ナリ

聯合國ノ富面スル政治的向題ノ範圍ハ勝利ノ時期近付クニ伴ヒ益々  
擴大シ居リ而シテ「ヒットラー」一派既ニ聯合國内ニ於ケル其非段々

秘

電信寫

外務省

秘

電信寫

者共ハ此ノ政治問題ノ紛糾ニ依リ聯合國間ノ意見ノ對立カ激化シ更ニ其離間ヲ實スニ至ルヘキヲ妨止シ居レル處「クリミア」會議ハ石期待カ何等實現現性ヲ有セサル事ヲ曾證セリ又今次會議ニ於テハ「テヘラン」會議ニ於ケルヨリモ遠ニ廣汎ナル問題カ審議且解決セラレタリ即チ「テヘラン」會議ニ於テハ第二戰線設定ヲ中心トスル軍事的問題カ主タル議題ナリシカ「クリミア」會議ハ軍事的問題ノミナラス現在及戰後處理ニ關聯スル重要ナル政治的諸問題ヲ包括シ居リ聯合國間ノ協力増進ノ跡ヲ明瞭ニ暴露シ居レリ

現段階ニ於ケル自由愛好國民ノ最も重要ナル目的ハ共同ノ敵「ヒツトラー」獨逸ノ殲滅ニアルコト勿論ナルモ敵ノ殲滅ノミカ唯一無二ノ目的ナル譯ニハ非ス問題ハ最後ニ於ケル但久の平和ノ維持ニアリ而シテ歴史的經驗得ニ剛次世界大戦ニ於ケル二十年ノ經驗ニ徴スルニ來タルヘキ平和ノ性質ト德國トハ専ラ今次戰爭ノ仕上方法即チ殲滅後ノ獨逸ニ對スル態度如何以ニ自由愛好國間ニ於ケル戰後提議ノ

外務省

秘

電信寫

有無ニ惹リ居レリ英米蘇三國ハ此ノ點ニ付重要ナル責任ヲ有スルモノニシテ民主主義國ノ輿論カ石宿願ニ關スル「クリミア」決定ニ大ナル期待ヲ掛ケ居ルモ敢無キニ非ス

斯クテ「クリミア」會議ハ獨逸土ノ占領、獨逸ノ軍事的及經濟的武装解除、戰爭犯罪人處罰、賠償「フアシズム」ノ根絶等ノ措置ヲ決議シタルカ之ニ對シ英米ノ一部有力團體、「パチカン」ヲ中心トスル加特力一派反動分子、私利追及ノミヲ念トスル實業家等カ反對ヲ唱ヘ居リ又英紙「エコノミスト」ノ如キハ「クリミア」決定ハ敵メテ曖昧ニシテ對獨和半條件カ曖昧何レニ處スルヤヲ論別シ得ス而シテ如何様ニモ併存セラルル旨進ヘ居レルカ獨逸ノ辯護者共ハ如何ナル曲折ヲ為ス共具ノ目的ヲ達シ得サルヘシ

外務省

秘

電信寫

尚「クリミヤ」會議ハ國際安全保障機構ノ創設事業ニ極メテ大ナル  
 寄與ヲ齎シタリ即チ安全保障理事會ノ表決手續解決セラレタルカ外  
 紙幣ニ米紙ノ報道ニ依レハ理事會ノ決議ハ制裁手段ノ適用ナキ場合  
 ニハ多數決ヲ以テ採擇セラレ且紛争ノ當事國ハ右表決ニ參加セサル  
 ヘク又軍事的措置乃至經濟的措置ノ如キ制裁手段ノ適用ヲ必要トス  
 ル場合ニハ英米蘇俄支ノ五常任理事國全部ヲ含ム過半数ノ理事國カ  
 當該決議ニ贊成シタル場合ニ於テノミ採擇セラルルコトナリタル  
 趣ナリ

次ニ歐洲諸國カ「フアツシズム」ノ桎梏ヨリ解放セラレタル結果多  
 數ノ緊急ナル政治及經濟問題發生シ之ニ付テ時折折聯合國間ニ意見ノ  
 相違ヲ來シ居リタルカ「クリミヤ」會議ニ際シ三巨頭ハ「歐洲解放  
 地ニ訴スル宣言」中ニ於テ調和的政策遂行ノ意思ヲ表明セリ又波蘭  
 問題ニ付テハ亡命波蘭政府ノ政治的破産者、英米ノ親獨の新聞等カ  
 兎角ノ導ヲ立テ居ルモ波蘭ノ現實ノ事態ニ即シタル解決ヲ見ルニ至

秘

電信寫

5

レリ尙「ユーゴ」問題ニ付テハ「チト」「シユバシチ」協定ノ迅  
 速ナル實施方ヲ勸告セルカ「シユ」ハ右實行ノ爲既ニ「ベルグラ  
 ド」ニ到着シ居レリ

要之「クリミヤ」會議ハ「フアツシズム」ヲ全面的ニ撲滅シ且平和  
 及安全保障ヲ確保センカ爲ノ重要ナル指標トシテ史上ニ殘サルヘク  
 而シテ歐聯ノ輿論ハ右會議ノ決定ヲ聯合國間ノ相互的諒解増進ノ確  
 固タル證據ト看做シ居レリ(了)

古澤君

三月

和ニ〇 三〇九五 略 里斯本 二月二十一日〇〇二〇發 弘政  
生一〇 本 省 二十三日〇九二五着 弘政

重光外務大臣

森島公使

第五〇號

(「クリミヤ」三國會談備紙論評ノ件)

當地新聞「クリミヤ」會談ニ對スル論評比較的觀キモ十五日政府  
機密紙ハ同會談ニ於テ決定ヲ見タル世界機構ノ根本原則カ果シテ世  
界安全保障ノ實效ヲ擧ケ得ルヤ否ヤハ幾ニ「ワイルソン」ノ理想タ  
ル國際聯盟ノ失敗モアリ今後ノ事實ニ徹スル仰無キ處世界平和ヲ維  
保スル唯一ノ手段ハ一切)ノ帝國主義ノ解消ニ在ルニ拘ラス今回各  
國權利ノ擁護上武力保障ヲ必要トスル原則ニ到達セルハ一種ノ悲劇  
ト云フ可ク右機密紙カ少數ノ大國利益擁護ノ機密化セサラムコト切望  
ニ堪ヘスト論シタルカ十六日當國商工業者即チ資本家階級ノ機密紙  
(英米宣傳機密ノ色彩極メテ濃厚)カ葡國ハ幾世紀ニ亘ル英國ノ同

秘

電信寫

外務省

秘

電信寫

葡國ニシテ外交經濟兩方面ニ於テ英國ト共同歩調ヲ取ルノ要アル處  
英國ノ參加セル「クリミヤ」會談決議ノ世界機構ヲ對シテハ葡國モ  
自勞的ニ之ニ協力參加スヘク殊ニ葡國ト英米伯三國トノ親善協調ハ  
葡國對外方針今後ノ基礎ヲラシムヘシト論スルヤ政府機密紙ハ翌十  
七日ノ紙上ニ於テ前機密紙全部ヲ轉載スル外右ト同趣旨ノ論說ヲ揭  
ケ居レリ

西へ轉電セリ

外務省



昭和二〇 三二五五 平ベルン 二月二十日〇四一發 政  
 三二五五 本省 二十五日〇一〇着 弘  
 三二五四

重光外務大臣

加瀬公使

瑞西情報第七八號

「ルーズベルト」ドゴール」會見不成立問題

一、經過

(4) 紐育「ヘラルド、トリヴューン」紙ハ巴里特電トシテ「ルーズ  
 ベルト」ノ會見申出ヲ「ドゴール」カ拒絶シタル旨ヲ報道其ノ  
 経緯ト共ニ掲載シタル（十九日紐育AFP）處佛政府筋ニ於テ  
 ハ本件ニ關シ未タ纏マリタル見解ヲ發表シ兼不居ルニ米側ヨリ  
 斯カル尙早且一方的ニ本件ヲ暴露セルハ佛ノ立場ヲ至極不利ナ  
 ラシムルモノニシテ米側當局ノ背信行爲ナリトテ憤激シ佛外務  
 省ハ十八日在巴里米國大使ニ嚴重抗議セリ（十九日巴里一ル

電信寫

電信寫

(4) 二十日佛國政府ハ本件ニ關シ「コンミニュニケ」ヲ發表セルカ其  
 ノ概要左ノ通り

十二日「ド」ハ在佛米大使ヲ通シ「ルーズベルト」ノ「メツセ  
 ーヂ」ヲ受領シタリ右「メツセーヂ」ニ依リ米側ハ「ルーズベ  
 ルト」カ客年十一月以來ノ佛政府ノ懇請ニモ拘ハラ斯巴里ヲ訪  
 問シ得サリシヲ遺憾トシ他方「ド」ヲ「アルジェー」ニ招致シ  
 同地ニテ會談致シ度キ旨申出タリ「ド」ハ之ニ對シ「アルジェ  
 ー」旅行ハ全ク豫期ニ反スル上目下要務多端ノ爲巴里ヲ留守ニ  
 シ得サル旨並ニ今後共「ルーズベルト」ノ巴里來訪ヲ國民ト共  
 ニ希望シ居ル旨回答セリ（二十日ATS）

三米紙反響

(4) 紐育 World Telegram

米國ハ劣等觀念ニ囚ハレ居ル「ドゴール」ノ不手際ヲ寛容シ得

ヘク石ハ米露關係ニ重大ナル影響ヲ及ボスニ至ラス「ド」ノ反

電信寫

大陸心算ハ米カ實際會議ニ於テ佛ニ平等ナル票決權ヲ許與セサルニ非サルヤトノ懸念アルモ右ハ「ド」ノ危惧ニ過キス米ハ佛カ強國トシテ平和機構ニ於テ完全ナル票決權ヲ保持スルヲ希望ス佛ノ弱化ハ即チ歐洲ノ弱體ヲ意味シ歐洲ヲ昏迷ニ陥ラシムヘク右ハ米ノ希望セサル所ナリ（二十日華府A.T.S.）

Paul Scott Rankine

本件ハ米佛關係カ過去數週間中ニ如何ニ惡化セルカヲ如實ニ示シ華府外交界ニ於テハ佛モ招請國トシテ一役擔ヒ居ル案港會議カ右ノ結果所期ノ成功ヲ收メサルニ非スヤト懸念シ居レ「ド」ノ拒絕理由ノ一部ハ「ル」カ極メテ「シヨートノイライス」ニ「ド」ヲ招待セントシタルコトニ基クヘシ蓋シ本件會議ハ兩國ノ各種專門家ヲ集結シタル大會議ナルヘク之ニ對シ佛脚ハ時間的ニモ充分ノ餘裕ヲ持チ得サリシモノナラン更ニ「ド」ハ「ク

外務省

電信寫

リミヤ」會議ニ招待セラレサリシ不滿ヲ今次ノ拒絕ヲ以テ端的ニ表明セリ仰方「ル」ノ「ド」ニ對スル態度ハ「ダクト」ヲ缺クモノナリ（二十一日華府A.T.S.）

外務省

外務省

三、佛紙反響

La France ハ本件ハ米佛兩當局ニ於テ密秘ニ附セラルヘク取極メラレ居リタルコ拘ラス在巴里米人筋ハ之ヲ暴露シタル模様ナリト述ベレ Mendel ハ「ルイズベルト」カ受諾セル佛國訪問ハ政府ノ所在地タル巴里ニ於テ行ハルヘキ筋合ヒナリト「ドゴール」ノ取リタル態度ニ贊意ヲ表ス（巴里 AFP）

四、英側反響

(イ)「タイムズ」

今次事件「ド」ノ不手際ヲ示シタルカ佛ノ態度ニモ了解シ得ル點アリ現下ノ佛國ハ恰モ熱病患者ノ如ク政府ハ素ヨリ國民一般モ佛國ニ取り最重要問題ヲ討議シタル三國會議議「ド」ノ招待セラレサリシ事實ニ神經ヲ惱マシ居レリ但シ佛ノ主張スルカ如ク同國カ三國會議ニ参加スルコトニ付テハ充分ノ理由アルモ然リトテ「ド」カ「ルイズベルト」トノ會見ヲ拒否セル點ニ於

電信寫

外務省

テモ批判ヲ免レサルヘシ（十二日倫敦「ルイター」）

(ロ)英食紙ハ本件ニ關シ在巴里特派員ノ長文ノ報道ヲ掲載シ居レリ

英政府筋ニ於テハ本件ヲ對岸ノ火災視シ得ルヲ喜ヒツツモ「ロ」

「ド」會見不成立ニ依リ佛政府カ「ヤルタ」會談ノ模様詳細ニ

付キ報告ヲ受クル最善ノ機會ヲ逸セルコトヲ遺憾ト爲シ居レリ

又外交消息通ハ「ロ」カ數箇月前既ニ巴里訪問ヲ約シタルコト

アリ米側ニテ今日周知ノ「ド」ノ感受性ヲ考慮ニ入レヌンテ今

回ノ如ク短時日ノ豫告ユテ「ド」ヲ「アルジュン」ニ招待シタ

ルハ不手際極マルモノナリト爲ス（二十日「ラヌイス」倫敦特

電）

五、瑞西紙反響

(イ)二十日附「ラヌイス」紙論說

米佛間ニハ「ヤルタ」會談ニ關聯シ種々交渉ヲ要スル事項ヲ記載シタル一新聞ノ不謹慎ナル駁論ニ依リ本件ノ如キ事件ヲ惹起

電信寫

電信寫

シ「ロ」及「ド」兩個人間ノミナラス米佛兩國民間ニ感情阻  
隔ヲ生セシメタルハ残念ナリトシ一度兩國民間ニ蟠リヲ生セ  
シメタル本件ハ解決容易ナラサルヘシ  
(ロ)二十一日附「トリビュン」ド「ジュネーブ」紙論說「ドゴ  
ル」ハ第二流國トシテ強國ノ列ニ加ハルヨリハ寧ロ多少ノ一時  
的摩搽ヲ犠牲ニスル覺悟ユテ「ロ」ノ招待ヲ拒絶シタル次第ナ  
リ

外務省

(了)

古抄  
三頁

電信寫

昭和二〇 三二五五 平 本 省 二月二十四日二二八發 政  
重光外務大臣 二十六日〇九五〇着  
瑞西情報第八一號 加瀬公使  
(三國會談ト英國議會)  
(二十三日)  
三國會談ト英國議會  
「クリミア」會議ニ關スル議會ノ討論ヲ控ヘ英政府ハ下院ノ動向ニ  
懸念シ居レリ極右數派ヲ始メトシ保守黨勞働黨中央黨ニ至ル迄東歐  
及東南歐問題ニ關スル英國ノ讓歩ニ付強力ナル軍事並ニ政治力ヲ有  
スル英國カ斯克モ對蘇媚態ヲ呈スル要無シト爲シ既ニ數週間前保守  
黨議員百名ハ「ルプリン」委員會ノ承認ニ飽迄反對ナル旨表明シタ  
ル次第ナル處彼等ハ「クリミア」會議ニ於ケル波蘭ニ關スル妥協ハ  
波蘭亡命政府ヲ裏切りタル他一般ニ合法政府ノ權利ヲ否定スルモノ

外務省

電信寫

ナリト論ス右情勢ニ鑑ミ議會ニ於ケル波蘭問題ノ取扱振リニ付テハ「チャーチル」モ大イニ慎重ヲ期スヘキモ議會ノ反對猛烈ナル場合ニハ「クリミア」共同宣言中ノ「民主的」「選舉ノ自由」等ノ字句ニ論スル英側ノ解釋ヲ闡明シ又在倫敦波蘭政府ノ政治家ヲシテ出來得ル限り多數改組後ノ臨時政府ニ參加セシムル様努力スヘキ旨ノ約束ヲ爲スノ要アルヘシ但シ政府カ信任投票ニ問フニ於テハ保守黨ノ大多數ハ親波蘭者ト雖モ信任ヲ拒否セサルヘシ(二十三日倫敦「ガゼット」ド・ローザンヌ)特電)

外務省

(了)

秘

電信寫

古田 三國會議

昭和二〇

三二四九

略

ストホルム

二月二十五日

三〇〇發

政

重光外務大臣

第一二七號

「クリミア」會談後佛ヲ繞ル紛糾

二月五日「ドール」ハ「ラヂオ」放送ヲナシ「英米蘇三國カ佛

蘭西ノ協力ナクシテ戰爭終結及國際平和問題討議ノ爲會談ヲナシ

居ルハ覆メテ不可解ナリ佛蘭西國民ハ佛蘭西カ平等ノ地位ニ於テ

討議シ贊同セル協定ニノミ拘束セラルルモノナリト述ヘ三國會

談ニ招カレサリシヲ極メテ遺憾トシ又忿激ノ意ヲ表明セリ

二十九日巴里發「ヘラルド」トリビューン」特電ニ依レハ「大

統領ハ「ヤルタ」ヨリノ歸途「ドール」ト「ナルヂエ」ニ會シ

「クリミア」決定ノ内容ヲ個人的ニ「ド」ニ通告シ又佛蘭西ノ桑

外務省

秘

電信寫

2

港會議參加開闢ヲ討議セムト欲シタルカ「ド」ハ「クリミヤ」決定審議ノ爲ニハ猶時日ヲ要シ且國內ノ經濟的實情ノ爲佛本土ヲ離レ得サルヲ理由トシテ之ヲ拒絶セリ（十九日紐育發當地新聞特電ニ依レハ「ビドウ」外相ハ三強國及佛蘭西間ノ了解ヲ増進スル爲「ドゴール」ノ「アルヂエ」行キヲ勸導セルモ「ド」ハ之ヲ容レサリシ由ニテ關係中ニハ今次「ド」ノ執拗ナル態度ニ不滿ノ意ヲ表スルモノアリトノ極ナルカ二十一日「チートゲン」情報相ハ右ハ事實ニアラサル旨聲明セリ）

三米國政府ハ二十日附「コンミニユニケ」ニテ「ドゴール」カ國內事情ノ爲「アルヂエ」ニ來タリ得サリヨハ極メテ殘念ナル旨發表セルカ二十二日華府發「ロイター」特電ハ右「コンミニユニケ」發表ハ米佛關係ノ緊張ヲ證明スルモノナルカ華府外交界ニ於テハ右緊張ノ結果桑港會議カ期待ニ反スルヲ恐レ居ル旨報シ居レリ「ド」ノ拒絶カ米國民一般ニ極メテ惡影響ヲ與ヘタルハ事實ニシテ米國

外務省

秘

電信寫

3

輿論ハ表面上「ド」ヲ三國會談ニ招請セサリシハ賢明ナラスト稱シ居ルモ内心ハ「ド」ノ頑迷ナル態度及偏狹ナル自負心ヲ攻メシ居レリ

四二十一日巴里發AP電ニ依レハ佛蘭西政府ハ在佛米國大使館ニ對シ米國側カ本件ヲ一方的ニ公表セル不誠實ヲ坑議シタル處米大使館ハ事件ヲ濁洩セルハ佛蘭西ナル旨應酬シタル極ナリ

要之ニ本件ハ佛蘭西カ敗戦ノ汚名ヲ雪ギ一流強國ノ威信ヲ回復スルニ奔命シ居タルニ「ド」ノ希望ニ反シ三國會談ニハ招請セラレズ「クリミヤ」決定ヲ既成ノ事實トシテ佛蘭西ニ押付ケントセル米國ノ態度ニ不滿ヲ感シタルモノニ依ルモノト見ルヘク（其ノ他米國カ豫テノ物資供給ノ約束ヲ果サス態度ノ食糧難ニ直面シツツアル佛蘭西民ノ窮狀ヲ見殺シニシツツアルニ對スル大ナル不滿アリ）佛蘭西政府ハ三國會談ニ於テ佛蘭西ヲ除外シ獨逸ノ戰後處理及作戰根據地タル「ダカール」又東亞ニ於ケル佛印等ノ戰後

外務省

秘

電信寫

4

外務省

テイタス」ニ付何等合意成立シタルニアラスヤト疑ヲ有シ居レル  
 カ如シ  
 尙二月二日新聞報ニ依レハ米ハ事能ク憂慮シ大統領秘書「ツチー  
 プン、アーレー」ヲ巴里ニ急派シ又倫敦外交界ニ於テハ米佛關係  
 調整ノ爲位ニ佛蘭西ニ關係アル「クリミヤ」決定ヲ「ドゴール」  
 ニ通報スル爲近ク「イーデン」カ巴里ヲ訪問スル旨ノ噂行ハレ居  
 リ  
 又二十三日新聞報ニ依レハ「ビドー」ハ英政府ノ招聘ニ應シ近ク  
 訪英スル趣ナリ  
 獨へ轉電セリ

クリミア會議で秘密取極め

(リスボン二十一日發) ニューヨーク來電によれば米國大統領ルーズヴェルトはクリミア會議の歸途アルジェーラにおいて米國AP、UP、INS三通信社の代表と會見、クリミア會議で秘密取極めが成立したことをはじめて發表したといはれる、ルーズヴェルトの言明要旨次の通り  
「クリミア會議ではスターリン議長、チャーチル首相と余との間にある種の秘密取極めが成立した。余はこの事實を議會に報告する豫定だが、取極めの内容が發表出来ないこと勿論である、しかしその内容は比較的短かいかも知れぬし、或ひは五、六十年かかるかも知れぬ、クリミア會議では對日戰問題は議題にも上らなかつた、歐洲戦終了後にソ聯に對し太平洋問題の協議に参加するやう要請するか否かはまだきまつてゐない、ソ聯は日本に對しては完全な中立國であり、余もその中立を尊重しよう、反極軸のドイツ占領計畫は當初はソ聯

がドイツの東部を、英國が西部を、米國が南部を占領することとなつてゐた、米國の占領地域はライン河がマインツで彎曲する地點からの南部であり、バートデン、バイエルン、ウツテンベルクの諸地方を含み、プルーメンにおいて海への廻廊を有するものであつた、しかしその後フランスにも一部地方を占領させることとなつたので、米英兩國の占領地域は多分に變更されることとなつた。

クリミア會議

ドイツの東部



市河彦太郎・かよ子共著 最新刊

# フィンランド雑記

寡兵よく數十倍のソ聯軍に顔  
して奮戦せるフィンランドとは  
どんな國か。それは尙武の國で  
あると共に香り高い特異な文化  
を有する淳朴な民族である。著  
者は臨時代理公使として駐芬五  
ヶ年、その卓抜なる觀察と流麗  
な筆は、白夜の國フィンランド  
を描いて興趣甚きざるものがあ

## 内 容

- 第一部 外交と生活 (彦太郎)
  - 北歐とエツチング
  - 雜草を集めて
  - 土地と人
  - 戦ふフィンランド
  - フィンランドの外相を語る
  - 正月の餅
  - 白夜中の太陽
  - フィンランドで見た寺小屋
- 第二部 北歐に任みて (かよ子)
  - フィンランドの軍旗祭
  - スペインの酒とヴェラスケス
  - 客間で拾った話
  - ある夜の觀劇
  - 聖堂の人々の集ひ
  - ルーミアア公使館とフランス公使館
  - マンネルハイム元帥邸の一夜
  - 五時のお茶
  - 鉛筆一本の觀落
  - 木食り

四六判上製  
本文二三九頁  
口繪寫眞三一葉  
定價一・六〇  
送料一〇

東京市並馬場三ノ三番 河黄書院發  
振替東京一七七八番

